

鳥取県青少年育成アドバイザー 協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 36号
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
発行日 2003. 9. 23
編集 芳村恵子
〒680-0002 鳥取市浜坂東 1-10-15

就任ごあいさつ

三朝町西小鹿 山本邦彦

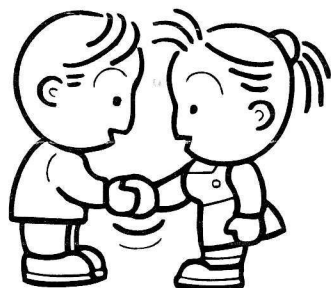
この度、県協議会の発足に尽力され、本会の活動を軌道に乗せられた高橋会長の後を受けて、2代目の会長に就任することになりました。

昨年は中四国大会を米子市で開催し成功裏に終了できたことから、交代となりましたが、もとより浅学非才な私に、青少年問題について専門的知識や指導力があるという訳ではありません。ただ、国民会議が実施するアドバイザー養成講座の一期生で、長年青年運動に携わり、20数年教育行政に係わってきましたので、少しは骨を折れ、ということでのご指名と思っています。

就任したからには、会員の皆様をはじめ、青少年問題に関心を寄せ、健全な育成を願う方々と力を合わせながら、微力を尽くしたいと決意しておりますので、何卒、宜しくご指導ご鞭撻下さいますようお願いいたします。

現在、私たちの周りに存在する多くの問題は、一人青少年だけの問題ではなく父母や祖父母が造り出した問題であり、家庭や社会や学校の問題であることを認識する必要があると考えています。

つまり、今の子供たちは・・・と非難するのではなく、父母も祖父母も、教師も周囲の社会人も、勿論、政治も行政もそして企業も、一人ひとりが真剣に「未来を担う青少年を健全に育成することは、自分自身の責任だ。」と自覚することが、何よりも必要と思います。



この基本認識の中で、祖父母である自分、父母である自分、社会人である自分は、今、何をなすべきか、具体的に何ができるかを考え、周囲の大人に、又、青少年にどう働きかけていくか、何を実践するかを決めてゆくことが大切と思います。

しかし、全員がその自覚をせよといっても、空論になりますので、差し当たって自覚できた自分から行動していくこととなります。その集まりの一つがわたし達の協議会なのです。活動は職業を通じ、身近な地域を通じ、自分が所属する組織を通じて実践していくことです。その継続が運動に発展していくのです。

わたし達が活動していく場合に、まず大切なことは、身近にいる青少年をどう理解し、何が問題なのかを正しく把握することです。そしてそれぞれの個人が生まれながらにして持つ人格や人権、個性を尊重しながら、何処をどのように伸ばしていくことが重要かを考える必要があります。これは課題意識、問題意識をどれだけ強く持つか、が大きな鍵となりますので学習の継続が大切だと思います。一人では難しいことが多すぎますので、関係する人たちと連携していくことも重要です。



これら会員一人ひとりの実践をアドバイザー協議会に持ち寄り、会員相互の研鑽を重ねながら、資質を高め、再び職場に地域に組織に帰って実践を積むのです。この積み重ねをするための拠り所が、わたし達の協議会と考えていただければ幸いです。

今一つ、会員がそれぞれに持っている個性や能力は異なっていますので、一人ひとりの会員は何が得意なのか、何が専門なのか、どんなことができるのかを互いにさらけ出して、個々の持つ力を発揮しやすい状況をつくる必要があると感じています。

その努力の積み重ねが、県民会議や市町村民会議、更には青少年育成関係団体の皆様に声をかけていただく機会を増やし、協議会の役割を高めてゆくものと考えています。

今後は皆が心を寄せ合い、持てる力を出し合い、研鑽を重ねながら、つぎの次代を担ってくれる青少年の育成に尽くしたいものと思います。皆様のご意見をいただき、共に力強い活動を展開していきたいものと念じております。重ねてよろしく願いいたします。

熱き思いを胸に

西浦公子

昨年度、中国四国ブロック研修会を、鳥取県で開催したことは、アドバイザーの人数が少ない私達にとって、最大のイベントでした。

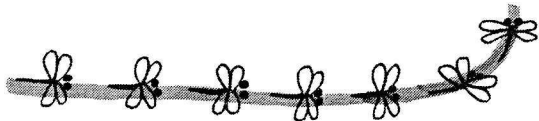
アドバイザーやそれを支えて下さっている方々全員で作上げた大会は、手作りの暖かさと親密感を感じて頂き、大盛会でした。このパワーは、今後の青少年育成の活動や、地域でのそれぞれの活動につながっていくものと確信しております。

ところで、このたびの役員改選で副会長という役を頂きました。あの熱き思いを胸に、鳥取県青少年育成アドバイザー協議会を、盛り上げたいと思っています。

しかし、これは一人や二人の力ではどうにも出来ないことです。皆様のご協力やご指導なしではできないことですので、どうぞよろしくお願いいたします。

また人と人がお互いに学びあい、育ちあうために、コミュニケーションは大切です。特に青少年に寄り添い一緒に育ちあうためには、人の話を聞くことができたり丁寧な関わりのできる人でなければなりません。そのための学びの一つとして、青少年育成アドバイザー養成講座があると思っています。2年間のレポートと1回の集合研修は、青少年に関わる者にとって学び多きものでした。そして、集合研修は、全国から集まった人との交流があるので、全国的なネットワークが広がっていきます。

この講座を多くの方に受けていただき、鳥取県の青少年育成アドバイザーの仲間を増やしていくことも、私達の大切な活動の一つと考えています。



新しいスタートに想う

新川 裕二

今年度の総会が終わり、長年このアドバイザー協議会を先頭で引っ張り、多くの足跡を残して頂いた高橋会長が引かれ、新会長に国民会議のアドバイザー養成講座第1回修了生である、山本会長が選出さ

れた。

そして、その事務局長として自分自身が選ばれたことに、どれだけのことができるか不安で一杯である。山本会長と事務局幹事の大ベテランである清水さんとに支えられ、鳥取県の子どものために何が出来るか、共に考え実践をしていきたい。



さて、先日、日本PTA協議会の全国大会が鳥取県で開催され、倉吉会場の分科会に参加した。基調提案の中で、講師の先生が次のような点を述べておられた。

今の子供達は、小さい頃からテレビ・ビデオ・ゲームなどメディア漬けになっている。そのことにより、人として学ばなければならない多くの体験する時間と場がなくなっている。身体やコミュニケーション能力が育たなかったり、バーチャル体験によりいのちの大切さが分からなくなったりしている。

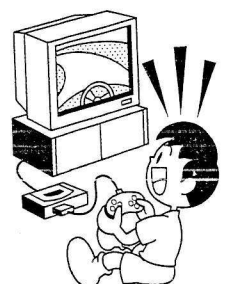
そこで、メディア漬けになっている親世代も含めたメディア・リテラシー教育の必要性を訴えられ、具体的な実践方法として「ノーテレビデー」「ノーテレビチャレンジ」の試みと成果について述べられた。

彼が、1978年にNHK特集「警告！子どものからだは蝕まれている！」を制作した頃からの一貫した提言に心を動かされた。

子どもたちの現状を憂うばかりでなく、それを取り巻く大人の環境を具体的にどう改善するか、小さなさざ波を起こしていくと共に、様々な立場から起きているさざ波がネットワークを図りながら、子どもを中心軸にして進んでいくことが益々大切になっているように思う。

高齢社会にあって、少ない子どもたちに、私たち大人がどんな努力をしていけるか。またどんなモデルを示せるのか。

これが21世紀の地球のあり方を決めるといっても過言ではないと思う。



鳥取県青少年育成アドバイザー協議会 第一回役員会報告

日 時：2003年8月31日（日）
場 所：ホテルセントパレス倉吉
出席者：山本邦彦・森岡敏人・西浦公子
井上廉女・田中寛一・門脇哲也
新川裕二・清水成眞

〈協議事項〉

重点目標について

- 1、アドバイザー受講者数の拡大について
- 2、研修活動の強化と資質の向上
- 3、休会・退会会員の取り扱いについて
24期の会員4名については、入会の確認を取る。
- 4、研修会について
開催日：平成16年2月7日（土）
場 所：鳥取県中部
講 師：平成15年度「青少年育成運動展開のための指導者養成事業」中央研修会参加者（5名予定）
- 5、「はぐくみ号」の発行について
発行予定日：平成15年12月
発行部数：200部
配布先：青少年育成推進指導員・青少年育成県民会議・青少年育成国民会議・各市町村教育委員会・鳥取県青少年育成アドバイザー協議会会員
テーマ：「携帯電話」～出会い系サイト～
字 数：約800字程度
募集期間：平成15年10月1日～10月31日
編集期間：平成15年11月1日～11月30日



- 6、アドバイザー通信について
芳村恵子担当
年4回発行予定
- 7、第9回青少年育成アドバイザー
研究集会について
開催地：徳島県
開催日：平成16年2月28日～29日
皆さん予定に入れておいて下さい

- 8、第8回青少年育成アドバイザー研究集会
鳥取大会のまとめについて

前幹事 井上廉女担当

発行予定日：平成15年12月

- 9、鳥取県青少年育成アドバイザー
協議会人材データバンクを発行する。
配布先：「はぐくみ7号」と同じ



青少年育成活動推進協議会に参加して

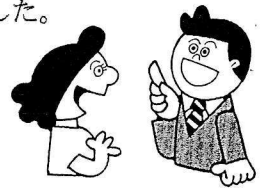
芳村恵子

平成15年9月4日、県立倉吉未来中心に於いて、各市町村の教育委員会および青少年育成推進指導員の方々が一堂に会し、青少年育成活動推進協議会が開催されました。

そこで、青少年育成アドバイザーの岩崎清江さんと私が実践発表をする機会が与えられました。

岩崎清江さんは「見守ること 待つこと」と題して、ガールスカウトのリーダー活動を通しての子ども達との関わりをお話されました。私は、「青少年育成アドバイザーとしての活動を通して」と題して、主に性教育についてお話させて頂きました。

真剣に聞いてくださっている青少年に関わる多くの方々を見て、地域のおじさんおばさんパワーも捨てたもんじゃないなと感じました。



ところで、わたし達の発表の前に、青少年育成アドバイザー通信講座の講師のひとりでもある、心理開発教育研究所所長 柿本勇先生の講義がありました。

「青少年の健全育成と家庭・地域の果たす役割」と題して、先生の子どもの時代の体験や、30年の教師生活の中から、そして現在のお仕事を通してお話をさせて頂きました。

ここに、お話の一部を皆さんにもお伝えしたいと思えます。

裏面に続く

「青少年の健全育成と家庭・地域の果たす役割」

現在起こっている様々な現象は、ここ30年間の日本の国造りの効率主義との関連性がある。

つまり、『早く、上手く（不良商品がない）、大量に（出来高）』を目指したことが、教育の上でも『どの子よりも早く計算でき、正しく大量に覚えること』がいい子であると評価されるようになった。

そんな環境の中で、少年の思いがけないような凶悪事件が多発し危機的状況が叫ばれるようになった。その都度マスコミの視線は、少年たちの心の闇を追求してきた。

しかしそうではなく、人間関係の崩壊・地域の崩壊が問題なのであると私は考える。なぜかという、凶悪事件を起こしている年代は少年だけではなく、40歳前後あたりの世代から下であることに注目して欲しい。

つまり、人の繋がりが多い世代である団塊の世代といわれる人々に比べ、高度成長の効率主義で育った年代は、学校すらもプラットホーム化し、人間関係もてんでんバラバラ状態となった。

なかよし



「人は人によって人になる」と言われる。心を持った唯一の動物であると言われる人間の心は、育てなくては育たず、その心を育てるのはやはり人間であり、大人である。しかし、子どもを大事にしない大人、支え合うことをしない子ども達が、ここ30年続いている。

そしていつでも子どもは宝である。その子ども達に未来志向がないのが現状である。それは大人が理論だけでなく自分の魅力ある生き様を見せていないために、「あんな大人になりたい」という人がいないからである。「ちゃんのようにになりたい」と言っていた昔と違い、家庭が崩壊して、テレビ・携帯付・個室のホテルや安宿と化した今、むしろ「ちゃんのようになりたくない」というのが現実である。

しかし決して満足していないはずである。そんな中でも、子ども達は、「自分で舞台を造り、自分の踊りを踊りたい」と思っている。褒められて、怒られて、責任ある仕事や役割を持ち、その結果をきちんと伝えられる心地良い「家」を求めている。

そこで、家族皆が1日の内30分でもいいから「家族団欒」という同じ時間を共有する。また、一人ひとりが単なるお手伝いでなく仕事を分担することが大切である。

とはいうものの、この家族の束ね役が父も母も出来なくなってきた。心が育つ環境でなくなってしまった。

また、知能を司る頭頂葉は独学で伸ばすことができるが、心を育てる機能の前頭葉は人によって開発される場所である。群れの中から育つものである。

この心は見えないものだが、育てるべき心には次のようなものがある。

①利他的な心（自分も他人も大事にする感謝や思いやり）②自立の心（自分で自分の進路を選択して生きる）③学ぶ心（知識を知恵に転換する。親の会話や生き様に接する。）④社会の秩序や約束を守る心⑤自己実現の心（未来志向の心）である。

これらは、大人の間観・子ども観によるところの対応に影響される。人間観には、理想像と理屈どおりには行かない実在的人間観があり、そのどちらも念頭に置いた上で、「見捨てないぞ。信頼しているぞ。」と気持ちを聴きながら、自分らしく生きられるように育てることが大人の責任である。

以上、一生懸命メモをしながら、講義を聞かせて頂きました。皆さんに充分伝えられる内容になったか分かりませんが、現実を見る眼をあらゆる方向から、またご自分の体験談から楽しくお聞かせ頂きました。有難うございました。



編集後記

日没が少しずつ早くなり、季節の変わり目を感じるようになりました。

新メンバーで出発したアドバイザー会に於いても引き続き通信を担当させて頂くことになりました。宜しくお願いいたします。

また、今回号より県民会議のホームページに掲載されることになりました。多くの方々に鳥取県青少年育成アドバイザー協議会を知って頂き、多くの仲間が増えるきっかけになればと思います。